資料３-２

第1回WGにおける意見と対応（案）一覧表

No.	第1回WG議事要旨	対　応（案）
1	大源太キャニオンの活性化には湯沢町の観光戦略が重要であり、そこに大源太キャニオンをどう位置づけていくのか、本ワーキングで議論する範囲を明確にする必要がある。	• 大源太キャニオンを含む土樽エリアの観光戦略は、平成10年策定の「湯沢町観光振興計画」に示されており、平成25年策定の同計画においても維持することが明記されているため、その方向性に従って取り組みを進めているところ。しかしながら、大型観光バスの急増は観光振興計画で想定されていないため、その対応は周辺再整備にあわせて検討したい。なお、本WGの検討範囲はWG設立趣意書のとおり大源太地区内までとしたい。 （資料4参照）
2	大源太キャニオンには、四季折々の景色や大源太山、魚釣り、キャンプ場、体験工房など多くの魅力がある。観光客の目的や動機を深掘りした上で、民間企業と連携したイベントやビュースポットのPR、本物志向等、その魅力を効果的に情報発信する方法を検討する必要がある。	• 大源太キャニオンエリアの施設運営者と町、観光協会で連携して魅力向上と情報発信力の強化を図りたい。既存施設のブラッシュアップに加え、冬季結氷した大源太湖の景観や工事によって新たに出来たビュースポットの活用、湖面の商業利用など、新たなコンテンツを含め情報発信の方法についても関係者とともに検討したい。 • 遊歩道は町で利用者に配慮した整備が必要と考えているため、ビュースポットの整備は遊歩道と合わせて計画したい。（資料5参照）

第1回WGにおける意見と対応（案）一覧表

No.	第1回WG議事要旨	対　応（案）
3	温泉旅館とキャンプ場の宿泊連携、健康や美容を意識したツアー企画、再生可能エネルギーの地産地消、旭原地区と連携した景観整備等、新たな魅力を検討してはどうか。	• 雪国観光舎においてインフラツーリズムのツアー商品販売実績があり、発売直後に完売するなど人気が高い。大源太の観光コンテンツを組み込んだツアー造成により、2次交通の弱さを補完することができないかを町で検討したい。なお、温泉旅館とキャンプ場の宿泊連携による商品造成は長野県白馬村で実施されており参考としたい。 （資料6参照）
4	大源太キャニオンには観光施設（キャンプ場、レストラン、体験工房等）が点在しており、個々のコンテンツを高めながら周遊性と絡めて、これらを一つのエリアとして連携する必要がある。	• 大源太キャニオンエリアの施設運営者と町、観光協会で連携して魅力向上と情報発信力の強化を図りたい。 • ハードではエリア内の周遊促進のためマップ看板を設置してあるが情報が古くなっており、工事後の周辺の変化や各施設HPリンクのQRコードも含めた内容に順次更新し周遊性を高めたい。 （資料7参照）

第1回WGにおける意見と対応(案)一覧表

No.	第1回WG議事要旨	対　応(案)
5	大源太川第1 号砂防堰堤等の施設効果や魅力を後世に伝えるよう検討してはどうか。	• 大源太川第1号砂防堰堤の仮排水トンネルの有効活用とあわせて、4で考えている施設運営者と町、観光協会による連携の中で、検討を行っていく。 (資料8参照)
6	大源太川第1 号砂防堰堤補強工事の仮設備である排水トンネルの有効活用(ビュースポット、農産物・酒等の貯蔵)を検討してはどうか。	• 自由に使用するような一般開放は行わず、冬期を除く特定の日にインフラツアーのような利活用方法について、関係機関と検討を行っていく。 (資料9参照)
7	来訪者の交通手段が自家用車や観光バスに限定されている。来訪者の動き(周遊性)について検討してはどうか。また、大型バスが駐車できるよう駐車場を広くしてはどうか。	• 越後湯沢駅から大源太キャニオンまでは路線バスがあるものの、観光客を考慮した運行設定となっていない。午前・午後の各1便は観光客を考慮した運行となるよう、引き続きバス事業者と検討・協議したい。 • 駐車場については周辺の利用計画や再整備について整理し、砂防堰堤補強工事にあわせ整備を計画したい。また、秋の大型バスについても対応策を検討したい。　(資料10参照)